

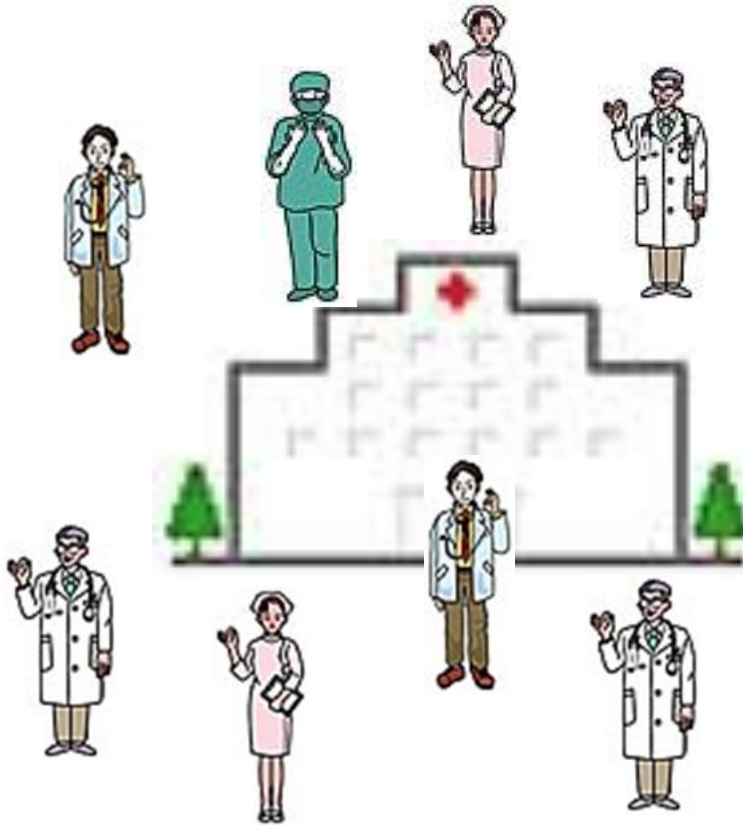
# 保土ヶ谷区の災害時医療体制

平成27年9月26日

保土ヶ谷区医師会 災害担当

# 救急医療

使えるスタッフ・  
器材は、どれだけ  
つぎ込んででも  
救命する事が第一



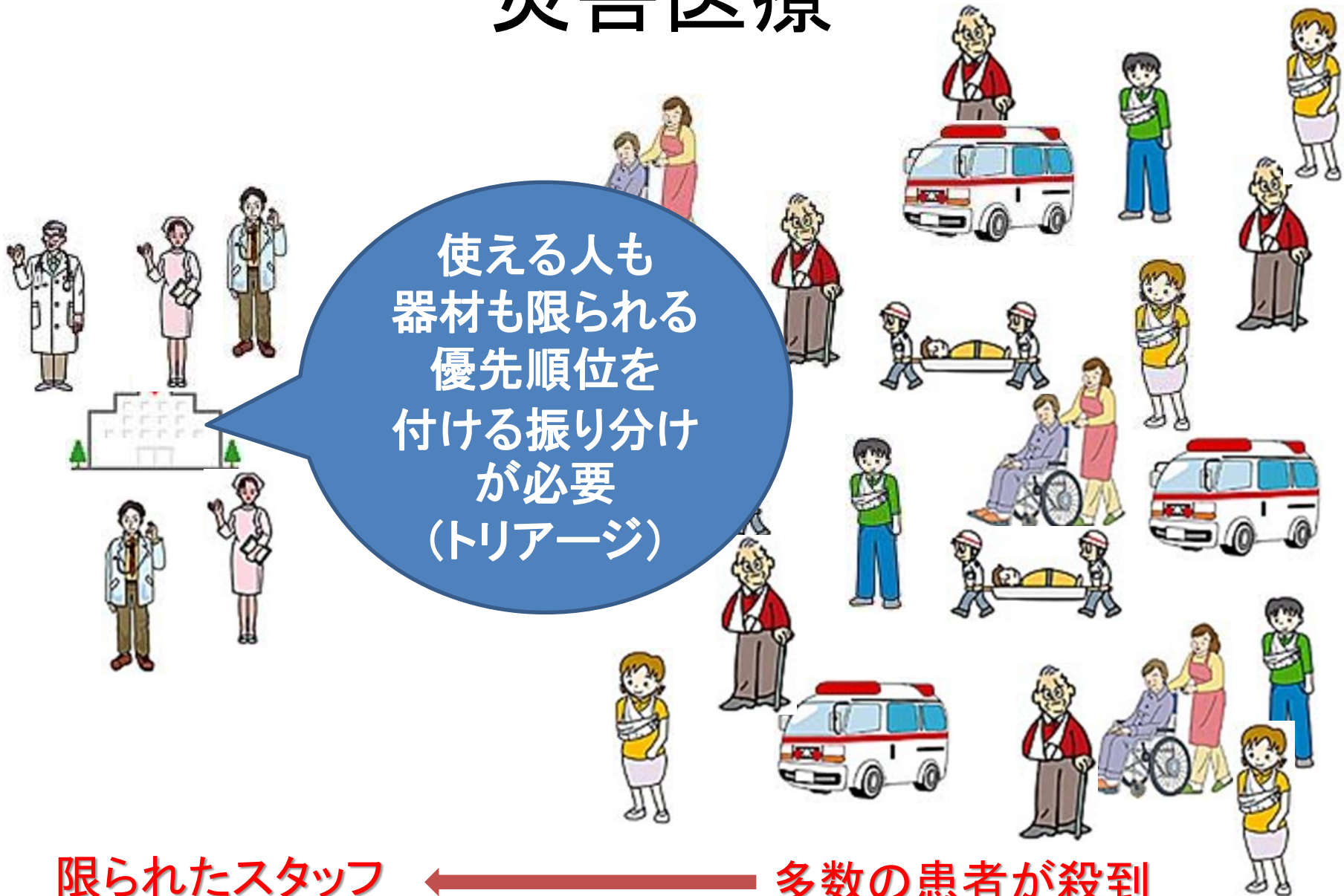
十分な医療スタッフ



救急患者一人に対し

# 災害医療

使える人も  
器材も限られる  
優先順位を  
付ける振り分け  
が必要  
(トリアージ)



限られたスタッフ

多数の患者が殺到

# 横浜市の災害医療体制

生命の危険がある  
と思われる場合

①災害拠点病院等  
(市内13病院。区内は市民病院)

入院を要する  
と思われる場合

②災害拠点病院以外の病院  
聖隷横浜病院、育生会横浜病院、横浜保土ヶ  
谷中央病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、  
港北病院※、常盤台病院※  
※精神疾患に対応

軽症程度  
と思われる場合

③診療所等  
④医療救護隊(地域防災拠点等)

応急手当で対応可能な軽度の負傷

⑤市民の自助・共助による手当

# 新たな医療提供体制

- 区内すべての病院、診療所は可能な限り診療を継続します。
- 地域医療救護拠点制度は廃止。
- 被災が甚大で、診療所が開かれない地域を優先して、医師・看護師・薬剤師等で構成された医療救護隊が地域防災拠点等を巡回診療します。

# 診療機関の確認

診療可能な医療機関や、薬の提供が可能な薬局は「のぼり旗」が目印です。

- 災害拠点病院は「診察中」(赤色)



- 病院やクリニックは「診察中」(黄色)



- 薬局は「開局中」(黄色)



# 新たな医療提供体制

- 区内すべての病院、診療所は可能な限り診療を継続します。
- 地域医療救護拠点制度は廃止。
- 被災が甚大で、診療所が開かれない地域を優先して、医師・看護師・薬剤師等で構成された医療救護隊が地域防災拠点等を巡回診療します。
- 医療機関では、**緊急性や重症度が高い患者が優先的に診療**されます（トリアージ）。地域の皆様のご理解、ご協力が必要です。

# クラッシュ症候群

## (知らないと怖い)

- 阪神大震災時に、瓦礫の下から救出されたのに、数時間後に急に亡くなった犠牲者が50人にのぼり注目。
- 救出直後は無症状で元気な事が多いので、見逃される。
- 腰・腕・腿などが、**2時間以上重量物に挟まれたまま**になると、筋肉が壊死を起こす。この壊死物質が、圧迫除去後に血液と共に急激に全身に広がり、心・腎機能を悪化させる。
- 治療は点滴と、早急な透析が必要になる。
- 救助できたときは、**圧迫された部位・時間と、圧迫していた物・重量**を記録し、医師に伝える事が大事



# 自助・共助が重要！

消防機関を含め、行政や医療機関も被災するかも...

- ① **かかりつけ医**や地域にある医療機関を確認
- ② **お薬手帳**の確認
- ③ **ケガをした時、症状に応じた医療機関へ**



# “わたしの災害対策ノート”

- 在宅で医療機器（電動ベッド・エアマット・呼吸器・吸引器・酸素等）を使用している人向け
- 停電、避難時に備えて用意しておく事  
例えばバッテリーの持ちの確認、代用品があるか、手動での対応、ボンベの持ち時間などを確認し、メモしておけるノート
- 保健師等と相談しながら、確認・備えができる
- 保土ヶ谷区役所 高齢・障害支援課が窓口

